

令和4年度 学校努力点

1 名古屋市の学校教育の努力目標 「ともに学び 自分らしく生きる」

- 主体的・対話的で深い学びの実現を目指して、一人ひとりの興味・関心や能力、進度に応じた「個別最適な学び」と「協動的な学び」の一体的な充実を図る。
- 子どもが、自他のよさに気づき、互いを尊重しながら自分らしく生きることができるようにするために、安心・安全で幸せな居場所となる学校づくりを推進する。

2 本校の教育目標 「心身ともに健康で調和のとれた人間性豊かな生徒の育成をめざす。」

- 基礎学力を習得し、自ら考え、判断し、表現できる幅広い学力の育成をめざす。
- 創造することの楽しさや感動する心などの育成をめざす。
- 思いやりの心、自他の生命や人権を尊重する態度、自分や家族・郷土に対する誇りや愛着など道徳性の育成をめざす。
- 健全な生活を目指し、心身の充実を図る育成をめざす。

3 令和4年度 本校努力点

「主体的に学び、働き掛けることができる生徒の育成」
「主体的に学び、働き掛けよう」 ← 生徒バージョン

令和3年度から、「主体的に学び、働き掛けることができる生徒の育成」で一人一実践を行ってきた。その結果、課題解決のために自ら進んで取り組んだり、他者との働き掛けを大切にしたりしながら、励まし、認め合う生徒が増えてきた。また、生徒が主体的に取り組むことができるように、教員が働き掛ける機会や助言の仕方を工夫したことで、より学びを深めようとする生徒も増えてきた。

「努力点設定の理由」

令和4年度の名古屋市の学校教育目標は、「ともに学び、自分らしく生きる」である。重点事項として、以下のように記されている。

- ・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の推進
- ・自他のよさに気づき、自分らしく生きることのできる子どもの育成

そこで、令和4年度も、子どもたちがこれからの社会で互いに支え合い、認め合いながら生きていくことや自他の言動に共感しながら自分らしく生きていくことができるように、「主体的に学び、働き掛けることができる生徒の育成」を引き続き設定していく。設定した理由としては、令和4年度に改訂された生徒指導提要にも記載してあるように、

- ①児童生徒の自己存在感を与えること
- ②共感的な人間関係を育成すること
- ③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること
- ④規範意識の醸成が重要である

としている。この4点は「名古屋市の学校教育の努力目標」にも合致する。また、「主体的に取り組む態度」が重要視されており、学びに向かう力と自分のよさに気づき、そのよさを仲間との対話を大切にしながら、集団としてどう生きていくかも求められているため、今回の努力点として設定した。

努力点を実践するために、教科の場面では、ICTを活用して個別最適化をめざす学習形態の構築や対面授業と対話の併用をしながら、基礎基本の定着と自分の考えをもとに表現する力を向上させる必要がある。また、特別活動や特別の教科 道徳など、学校行事や学級・学年の活動の場面でも、自他のよさに気づき、周りと認める・励ますといった「働き掛ける力」を身に付けるためにも、教員がGWT（グループワーク）や「なかまなビジョン」、「なかまなビジョンアラカルト」、「今すぐできる校内研修」などを参考にしてPDCAサイクルの確立に努め、「主体的に学び、働き掛けることができる生徒の育成」につなげたい。

※「主体的」とは、与えられたものでも、自分なりに考えたり、工夫したりしながら、課題解決に向けて行動することである。

※「働き掛ける」とは、生徒が主体的に取り組むことができるように、教師が場や機会を工夫する助言をすることや、生徒同士で認め、励まし合うことである。

(1) 努力点の柱

- ① 主体的に学ぶために、各教科で毎時間「めあて」を伝え、学ぶ場面の授業形態や教材、指導過程等で工夫する。そして生徒が個人で考えたり、グループで考えたりしながら、深い学びにつながるよう進んで学習に取り組むことのできる生徒を育成する。
- ② 自ら学校生活の様々な活動に参加し、自分のよさを生かしたり、自分の気持ちや考えを言葉で適切に表現するコミュニケーション力を発揮したりしながら、よりよくするためにはどうしたらよいか考えながら行動をすることのできる生徒を育成する。
- ③ 自他を思いやる心や認める心、奉仕の心をもつとともに、互いに助け合い、いのちを大切にす生徒を育成する。
- ④ 目標達成に向けて、自分の考えに自信をもって粘り強く努力する生徒を育成する。

(2) 努力点推進の方法

ア 努力点推進委員会を中心に計画立案し、全職員の共通理解を図る。

イ 各学年・教科領域で目標の具体化を図り、実践推進する。

ウ 生徒一人一人に何が必要か、生徒の様子をよく観察し状況を理解し、必要な助言をできるように授業力を高めたり、適切な言葉掛けをしたりする。

(3) 具体的な取り組み

学年の実践と評価

- 総合的な学習の時間、朝の短学活での学習活動の時間、学年集会指導、学級活動、道徳
- (1) 目標達成への指導と評価(生徒による自己評価と教師側の評価)
- (2) 基礎・基本の定着と主体的な学習態度の確立(日常の学習やテスト勉強への取り組み方など)
- (3) 自分の考えを言葉で表現し、行動に移すことができる姿勢の育成
- (4) 自他ともに認め、互いのよさに気づき、そのよさを発揮できるような人間関係づくりの促進

教科部会ごとの実践と評価

- 教科学習の場面
- (1) 目標達成に向けた具体的な指導と評価の一体化を目指す。
- (2) 生徒が意見を出し合い、学びを深める場面を設定する指導計画の立案と実施
- (3) 授業中におけるT Tの効果的な支援による基礎学力の定着を図る指導
- (4) 教科書改訂に伴う評価方法・評価場面・評価規準の見直し・検討・作成

道徳の実践

- 道徳の時間、日常生活の場面
- (1) 多様な価値観を知る具体的な指導計画
- (2) 互いを尊重する人間関係づくりのための支援
- (3) 自己の生き方についての考えを深める活動

生徒指導・特別活動部会での指導と評価

- 生徒会活動、各委員会活動、その他学校生活全般の場
- (1) 目標を達成するために、互いに意見を出し合って課題を解決する活動
- (2) ボランティア活動や環境美化活動の推進
- (3) 教育相談を活用した、安心・安全な学校生活送るための支援

学校行事や総合的な学習ごとの実践と評価

- 校外学習、修学旅行、稲武野外学習、文化祭、職場体験、職場見学等の行事や総合学習
- (1) 生徒主体による行事の推進。フォローアップする支援
- (2) 行事に関連させた、人間関係づくり向上に努めた「自他のよさに気付く活動」の実施
- (3) 問題点を生徒が発見し、解決するための協力や意見の出し合い

生徒に対しての生活目標を次のように定め、具体化を図る。

- ・自分の気持ちや考えを、日記など文章で表現したり、朝や帰りの会で発言したりできるようにしよう。
- ・仲間と協力して真剣に学習に取り組み、自分の意見を発表しよう。
- ・集団のきまりを守り、誰もが住みよい生活環境といじめの無い安心できる学校をつくろう。
- ・思いやりの心をもって自他を大切に、奉仕の心をもって生活しよう。
- ・係活動・清掃活動など協力し合う集団生活を通し、心身ともに健康な体をつくろう。

(4) 努力点推進組織

- ア 学年会 …………… 学年努力目標と実践計画作成、学年行事・学級活動での取り組み
- イ 学習指導・教科部会 … 教育課程の作成、授業研究（各教科領域）
- ウ 道徳部会 …………… 道徳授業計画の作成、実践に向けての検討
- エ 特活部会 …………… 実践計画の作成、生徒会・委員会活動での取り組み
- オ 生徒指導部会 ……… 月目標の作成、生徒の生活全般

(5) 推進計画

月	内 容
4～5	実践計画・努力目標等作成、指導内容・方法検討、生徒の実態把握調査
5～6	活動の推進
7	1学期の取り組みの反省、2学期の推進計画の検討
9～11	活動の推進、（9月 中間報告）
12	2学期の取り組みの反省、3学期の推進計画の検討
1	活動の推進、結果の分析
2～3	努力点のまとめ、反省と次年度への方向づけ

※教科および領域を選び、一人一実践に取り組む。9月または2月の現職教育で各教科の代表が実践発表をする。また、全員が紙上発表を行う。

(6) 評価の方法

保護者・生徒に対して、アンケートを実施する。

【努力点推進委員会組織図】

